

ずいそう

最近思うこと

堀 具 王



人との“出会いの不思議さ”について最近思うことがあります。年齢を重ねたからかもしれませんが、多分この思いは多くの人も経験されているのではないのでしょうか。何故、今この人とこんなによく会うようになったのだろう。何故、急な用件でも都合を付けて駆けつけてくれるようになったのだろう。何故、心を打ち明けることができるようになったのだろう。何故が続くことがよくあります。私にとって人との出会いは本当に有り難いことだと感謝をしています。

先日、講演会を聴講した際にその中で「最近の若人には恩師と呼べる人との出会いが少なくなり仕事を先輩の背中を見て学ぶ事、公私共に迷った際に相談をして進む方向を指し示してもらうことが少なくなったのではないか。」と話されていました。背景には景気の大きな環境変化もあり一概に現状と対比することはできませんがなるほどと思いました。私達年代が過ごしてきた時代にはバブル景気があり今でも良き時代にできるなら少しでも近づきたいという思いで、日々頑張ろうと思うことができますが、現在のように長引く就職難を過ごしている若者にとって私達年代とは違った時代背景、希薄な人間関係があるのかもしれませんが、では、私の場合はどうだったのだろうかと思返してみると本当に恵まれたことに恩師と呼ぶことができる人は数人います。ある恩師とは今でも年に数回、関西方面に行き会食をしています。私の中では人に対してご迷惑をおかけしたり、怠けていると表情や人相に出ると若いときから思っています。恩師の目に今の私はどのように映っているかを率直にお話ししていただくため、恩師の健康なご様子を拝見することも含めてお会いしています。現在の私にとって恩師と巡り会うことができたからこそ未熟ながらも社会人としての自分の指針を持つことができ、まだまだ道半ばではありますが仕事に対しての心構えや考えを持つことができたと思います。これらが基で多くの人と出会うことができたのではないかと考えています。

出会いの場は、仕事関係であり生活地域であり趣味関係等々と多方面にあります。仕事関係の場合は、お互いの仕事を成功させるために繋がってきましたが、それまで親しくしていても退職と同時に疎遠になるこ

とがあります。できるならば退職後も末永く懇親を深め続けていければと考えています。退職してから友人をつくり始めようとする若く若い時に比べて多くの歳月がかかります。私は、退職後にはやはり生活地域における友人が必要ではないかと40歳を越えた頃から考え始めていて、地域の催しには進んで参加するように現在も努めています。地域の友人と友情が深まるにつれて異業種の実情や地域環境を知ることができ、現状の対応策や今後の仕事を進める方向性について仕事関係の友人とは違った考え方を学ぶことができ、違った助言を受けることができます。これらは仕事にとって新鮮な発想を引き起こしてくれます。趣味関係の友人は、趣味の内容によって職種、年齢層や社会的立場が違い、仕事ではお会いする機会のない人とも親しく話ができ、趣味の会は出席回数と共に輪が広がっていきます。趣味を通じての会話は、なぜか時間を忘れることもしばしばあり楽しい時間です。長い友人と言えば同窓生であり若いころの私を知り、理解してくれる友人です。この時ばかりは仕事も忘れ当時に戻り、気持ちを解放できます。年齢を重ねれば仕事関係や家庭の状況等の諸状況によって同窓会に出席する人もある程度固定化されてきます。同窓会で話すことにより私の忘れていたことが友人によって思い出され、不思議な感覚で蘇ってきて新たな可能性を気付かせてくれることもあります。

人との出会いは、人生に大きな豊かさをもたらしてくれますし、公私にわたり新たな活力となってきます。この活力を過去の経験と加味して今後の仕事への新たな挑戦と安定した地盤作り、心躍るそして心穏やかな時間創りに生かしていこうと思います。出会いは、稀に誘導されたような不思議な感覚を起こさせる時もありますが、全てが何らかの恩師によって、友人によって、自分によって積み重ねられた出会いの要因があって初めて起こるのではないかと思います。これらの全ての出会いを生涯大切に今後的人生を有意義に過ごしていこうと思います。私をご指導いただいた全ての人に心より感謝をいたします。